

科目名 (英)	理学療法特論 ( Special PT )	必修 選択	選択必修	年次	4	担当教員	茂呂 行哲
学科・コース	理学療法科・Ⅱ部	授業 形態	講義・演 習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 土曜 曜日・時限
教員の略歴	理学療法士、2012年4月～2015年3月 介護老人保健施設勤務。2015年4月～2017年5月 整形外科病院(外来)勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。						
授業の学習内容	臨床実習ならびに卒後の臨床では、学内で学んだことだけでは対象者に対し十分な理学療法の提供が難しい。学内で学んだ机上の知識や健常者を対象にした評価・治療技術を更に有意義にしていくためには、より広い分野や新しい知見を学ぶ必要がある。臨床での知見や臨床的推論の例を通して、よりよい実習や卒後の成長の一助になる内容を講義と実技を通して指導していきたい。具体的な内容としては臨床での動作分析をはじめとする臨床的推論を力学や運動学などを中心に指導する。						
到達目標	ヒトの動作を力学、運動学や神経生理学・心理学などを包括して捉えて、推論することが出来るようになる。						
評価方法と基準	1)レポート30% 2)出席数70% 出席し学ぶ姿勢を重要視し、出席に応じた理解とレポート内容によって評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/15	講義	EBMとEBPTを説明できる	講義内容の復習
2	5/15	講義	臨床的推論を説明できる	講義内容の復習
3	5/22	講義	ヒトの運動の階層性を説明できる	講義内容の復習
4	5/22	講義	慣性の法則を説明できる	講義内容の復習
5	5/29	演習	姿勢や運動を慣性の法則で分析できる	講義内容の復習
6	5/29	講義	力の定義を説明できる	講義内容の復習
7	6/12	演習	姿勢や運動を力の定義で分析できる	講義内容の復習
8	6/12	講義	作用・反作用の法則を説明できる	講義内容の復習
9	6/19	演習	姿勢や運動を作用・反作用の法則で分析できる	講義内容の復習
10	6/19	講義	モーメントを説明できる	講義内容の復習
11	6/26	講義と演習	姿勢や運動をモーメントで分析できる	講義内容の復習
12	6/26	講義	全身運動の関係を理解できる	講義内容の復習
13	6/27	講義と演習	全身運動を質量と活動の関係から分析できる	講義内容の復習
14	6/27	講義と演習	心理的要因を含め全身運動を分析できる	講義内容の復習
15	7/17	演習	健常人の動きを分析し統合解釈を記述できる	講義内容の復習
		試験	レポートを作成	
準備学習 時間外学習		講義内容の復習		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
資料随時配布				

科目名 (英)	理学療法教育・職場管理法	必修 選択	必修	年次	4年次	担当教員	渡邊 好孝
	Educatin of PT,Job of Management	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 木曜 6・7時限
学科・コース	理学療法科・Ⅱ部						
教員の略歴	昭和54年6月から平成14年3月まで厚生労働省に勤務し、病院臨床と附属リハビリテーション学院教官を兼務する。平成14年4月より宮城県内病院のリハビリテーション部門の科長・部長。法人総務部長・教育部長。地域包括支援センター所長などを歴任する。平成28年10月より同病院リハビリテーション部顧問・人財育成部顧問、他医療法人地域包括ケア推進部長。医療保険領域と介護保険領域での経歴と学生・職員教育、管理業務等を経験した。						
授業の学習内容	①理学療法概論及びリハビリテーション概論の内容を踏まえ、より具体的に職業倫理と職場管理について学ぶ。 ②医療・福祉現場における教育について、カルテやリハビリテーション実施計画書作成などの業務管理について学ぶ。						
到達目標	①理学療法士にふさわしい倫理と心構えを説明できる。 ②医療現場におけるスタッフ教育の在り方、スタッフマネジメントについての理解を深める						
評価方法と基準	1)授業態度30%、定期試験70%。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/4	講義	医療現場のルール(医療人のモラル、命を扱うということ)を理解することができる	講義内容の復習
2	6/4	講義	社会人としてのマナー(挨拶の仕方・忌避、時間管理、公私混同、整理整頓の仕方)を理解することができる	講義内容の復習
3	6/11	講義	就業規則について(良い職場をつくる、トラブルの予防)理解することができる	講義内容の復習
4	6/11	講義	サービスの構造とマネジメント(医療の質、マネジメント理論)を理解することができる	講義内容の復習
5	6/18	講義	PDCAマネジメントサイクル(PDCAサイクルを回す意義、その他)を理解すること	講義内容の復習
6	6/18	講義	研修の種類と、その目的(職場における研修の在り方、研修の種類の検討)を理解することができる	講義内容の復習
7	6/25	講義	患者サービスと医療サービス(安全対策マニュアル、セカンドオピニオン、質の高い医療と満足度の高いサービス)を理解することができる	講義内容の復習
8	6/25	講義	チーム医療(医療専門職の連携)を理解することができる	講義内容の復習
9	7/2	講義	チーム医療(患者・家族の尊厳、QOLの向上・維持)を理解することができる	講義内容の復習
10	7/2	講義	優先順位の考え方(優先順位をつける項目、意義と方法について)を理解する	講義内容の復習
11	7/9	講義	タイムマネジメント(生産性を高める時間管理、仕事効率と時間効率)について理解することができる	講義内容の復習
12	7/9	講義	タイムマネジメント(手帳の管理、ToDoリスト、ブレインストーミング、職場コミュニケーション)を理解することができる	講義内容の復習
13	7/16	講義	生涯教育(生涯学習社会)について理解することができる	講義内容の復習
14	7/16	講義	生涯教育(生涯学習が個人に与える影響と社会に与える影響)について理解することができる	講義内容の復習
		試験		
15	7/30	講義	まとめ(学びの意義、総まとめ)	講義内容の復習
準備学習 時間外学習			授業内容の予習・復習を行うこと	
【使用教科書・教材・参考書】				
資料を配布する				

科目名 (英)	地域理学療法学実習 ( Practice of Community PT )	必修 選択	必修	年次	4年	担当教員	①高橋未倫 ②茂呂 行哲
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分 曜日・時限	通年
学科・コース	理学療法科・Ⅱ部						
教員の略歴	①理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学)、Golf physio trainer(2017取得)。 ②2012年4月～2015年3月 介護老人保健施設勤務。2015年4月～2017年5月 整形外科病院(外来)勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。						
授業の学習内容	・地域理学療法の知識を用いて、理学療法士として病院外で地域住民の健康を支える役割を理解する。 ・地域高齢者に対する検査・測定、およびフィードバックを実践し、地域理学療法に対する理解を深める。						
到達目標	①地域理学療法における理学療法士の役割を理解することができる ②介護保険制度について説明することができる ③病院外での理学療法士の働き方について説明することができる ④地域高齢者に対する評価及び適切なフィードバックを実施することができる						
評価方法と基準	・授業内評価(50%) ・レポート課題(50%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/16	講義	地域理学療法の意義と目的について理解することができる。	講義内容の復習
2	5/16	講義	介護保険法について学び説明することができる	講義内容の復習
3	5/16	講義	介護保険法について学び説明することができる	講義内容の復習
4	5/23	講義	理学療法と介護保険(通所分野)の関連について理解することができる	講義内容の復習
5	5/23	講義	理学療法と介護保険(通所分野)の関連について理解することができる	講義内容の復習
6	5/23	講義	理学療法と介護保険(訪問分野)の関連について理解することができる	講義内容の復習
7	5/30	講義	理学療法と介護保険(訪問分野)の関連について理解することができる	講義内容の復習
8	5/30	講義	理学療法と介護保険(介護予防分野)の関連について理解することができる	講義内容の復習
9	5/30	講義	理学療法と介護保険(介護予防分野)の関連について理解することができる	講義内容の復習
10	7/25	講義	廃用症候群(サルコペニア・フレイル)について学び説明することができる	講義内容の復習
11	7/25	講義	高齢者の認知機能について理解を深めることができる	講義内容の復習
12	8/1	講義	高齢者の転倒について理解を深めることができる	講義内容の復習
13	8/1	講義	虚弱高齢者に対する評価方法やその意義について理解することができる	講義内容の復習
14	4/18	演習	地域高齢者に対する検査・測定の準備を行い実践することができる	演習内容の復習・練習
15	4/18	演習	地域高齢者に対する検査・測定の準備を行い実践することができる	演習内容の復習・練習
16	4/20	実習	地域高齢者に対して検査・測定を実施することができる①	
17	4/20	実習	地域高齢者に対して検査・測定を実施することができる②	
18	4/23	演習	測定結果をまとめ、地域高齢者に対するフィードバックの準備、資料作成、実技練習を行うことができる	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
19	4/23	演習	測定結果をまとめ、地域高齢者に対するフィードバックの準備、資料作成、実技練習を行うことができる	検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習
20	4/27	実習	地域高齢者への測定結果のフィードバックを実施することができる	
21	4/27	実習	地域高齢者への測定結果のフィードバックを実施することができる	
22	5/7	講義	地域高齢者への検査・測定およびフィードバック後の反省から、臨床での地域理学療法に対する理解を広げることができる	
23	5/7	講義	地域高齢者への検査・測定およびフィードバック後の反省から、臨床での地域理学療法に対する理解を広げることができる	
準備学習 時間外学習			復習:講義のまとめ、演習の復習 課題:フィードバック資料(レポート)作成	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	社会保障制度論 ( Social Security )	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	高梨友也 千脇隆志
学科・コース	理学療法科・I部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	曜日・時限 前期
教員の略歴	障害者・高齢者福祉施設において生活相談員、管理者、施設長						
授業の学習内容	①現代の社会保障制度は、人口動態や世帯構造の変化、国家のあり方など、制度の背景となる時代や政策が大きく変化しながら推移しています。特に我が国では、人口減少や少子高齢化など喫緊の課題があり、制度の持続可能性を含めた検討と取り組みが求められていることから、歴史と現状を学ぶ必要があります。②社会保障を構成する医療・公衆衛生・社会保障等の各領域を含めた上位概念として「社会保障」があります。③社会保障領域に携わる者として、それらを理解し、他領域の人々に説明できるようになることが必要です。						
到達目標	①社会保障の基本的な機能と役割を理解し、国民生活に沿った形で説明できる。 ②社会保障制度の構造と必要性について、他者に説明できる。 ③社会保障制度における自分の位置が理解でき、そのなかの役割を説明できる。 ④自分の役割を理解したうえで、他領域とどのように連携していくかをイメージできる。 ⑤生活支援を必要とする人に、活用できる制度を説明できる。						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)授業内レポート20% 3)授業内活動20% 4)到達目標の①②③について、80%以上理解すること 5)到達目標の④⑤について、60%以上理解すること 6)準備学習と時間外学習を課し、その達成度が60%以上であること						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6月5日	講義	社会保障の概念を自分の言葉で説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
2	6月5日	講義と演習	社会保障の目的を述べることができる	教科書の事前学習と授業後の確認
3	6月13日	講義	社会福祉の法制度の概要を説明できる	社会福祉の説明資料の検索と確認
4	6月13日	講義と演習	現代社会の変化と人口構造・世帯構造の変化を例を用いて説明できる	人口の変化を示す資料の準備と授業後の確認
5	6月20日	講義	経済状況と地域社会の変化を説明できる	地域別の社会構造と経済状況の関連分析
6	6月20日	講義と演習	社会保障と社会福祉の動向について述べるができる	関連資料を自力で検索・分析と復習
7	7月3日	講義	貧困・低所得問題と公的扶助制度の概要を説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
8	7月3日	講義	生活保護制度の内容と課題を記すことができる	教科書の事前学習と授業後の確認
9	7月4日	講義と演習	医療保障制度の沿革と構造を説明できる	関連資料を自力で検索・分析と復習
10	7月4日	講義	高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉それぞれを説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
11	7月10日	講義と演習	社会福祉援助と連携の重要性について自分の言葉で説明できる	関連資料を自力で検索・分析と復習
12	7月10日	講義	介護保障の歴史と介護保険制度創設の背景を述べるができる	教科書の事前学習と授業後の確認
13	7月18日	講義	所得保障制度の構造を説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
14	7月18日	講義と演習	年金保険制度のしくみと今後の展望を述べることができる	教科書の事前学習と授業後の確認
15			レポート試験	
16	7月31日	講義と演習	社会保障制度を総括して述べるができる	これまでの資料の概観と総括
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	臨床実習 I ( Clinical Practice I )	必修 選択	必修	年次	4年	担当教員	①高橋 未倫 ②茂呂 行哲
学科・コース	理学療法科 ・ II部	授業 形態	講義・演習・実 習	総時間 (単位)	315 (7)	開講区分	通年 曜日・時限
教員の略歴	①理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学), Golf physio trainer(2017取得). ②2012年4月～2015年3月 介護老人保健施設勤務。2015年4月～2017年5月 整形外科病院(外来)勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。						
授業の学習内容	今まで学んだ知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般について経験し実践できる。 ① 第3学年までに学習した知識と技術を臨床の場で実践する。 ② 症例に即した基本的な理学療法を経験し実践する。 ③ 理学療法を含めた各専門職の役割、機能、分担、運営、管理について学ぶ。 ④ 理学療法過程のうち、「臨床実習 I」では情報収集から治療の立案までを経験する。						
到達目標	臨床評価実習を踏まえ、実習生として必要な基本的な問題解決能力を身につける。 ① 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を指導助言のもとに経験し、解釈できる。 ② 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を実践する際に、安全性に配慮できる。 ③ 症例から得た結果の解釈及び結論を導いた経過、根拠を端的に示すことができる。 ④ 上記の1・2の項目を、指導助言を求めるとも含め「自発的に」できることをさらなる目標とする。						
評価方法と基準	【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40% 【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート: 60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1～4	5/30	講義	実習オリエンテーション 「臨床実習 I」の概要・目的を理解できる。	
5～ 142	6/1～ 7/21	実習	学内 臨床実習 I 期間 6/1～7/31	
147～ 150	7/22	講義	実習オリエンテーション 「臨床実習 I」についてのフィードバック をすることができる。	
151～ 154	7/23	演習	実習前OSCE 「臨床実習 I」で習得した技能を実践 することができる。	事前練習
155～ 158	7/24	演習	実習報告会 「臨床実習 I」で学んだ事を基にレポ ート・レジュメを作成し、学内で報告す ることができる。	
準備学習 時間外学習			学外 臨床実習に向けた自己学習、実技練習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ ( Clinical Practice Ⅱ )		必修 選択	必修	年次	4年	担当教員	①高橋 未倫 ②茂呂 行哲
	学科・コース	理学療法科 ・ Ⅱ部	授業 形態	講義・演習・実 習	総時間 (単位)	315 (7)	開講区分	通年
教員の略歴	①理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学), Golf physio trainer(2017取得). ②2012年4月～2015年3月 介護老人保健施設勤務。2015年4月～2017年5月 整形外科病院(外来)勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。							
授業の学習内容	今まで学んだ知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般について経験し実践できる。 ① 第3学年までに学習した知識と技術を臨床の場で実践する。 ② 症例に即した基本的な理学療法を経験し実践する。 ③ 理学療法を含めた各専門職の役割、機能、分担、運営、管理について学ぶ。 ④ 理学療法過程のうち、「臨床実習Ⅱ」では情報収集から治療実施までを経験する。							
到達目標	臨床評価実習を踏まえ、実習生として必要な基本的な問題解決能力を身につける。 ① 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を指導助言のもとに経験し、解釈できる。 ② 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を実践する際に、安全性に配慮できる。 ③ 症例から得た結果の解釈及び結論を導いた経過、根拠を端的に示すことができる。 ④ 上記の1・2の項目を、指導助言を求めるとも含め「自発的に」できることをさらなる目標とする。							
評価方法と基準	【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40% 【学内】 学校での症例発表、症例報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート: 60%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1～4	8/15	講義	実習オリエンテーション 「臨床実習Ⅰ」の概要・目的を理解できる。	
5～142	8/17～10/13	実習	学内 臨床実習Ⅱ 期間 8/17～10/13	
143～146	10/10	講義	実習オリエンテーション 「臨床実習Ⅱ」についてのフィードバック をすることができる。	
147～150	10/12	演習	実習前OSCE 「臨床実習Ⅱ」で習得した技能を実践 することができる。	事前練習
151～154	10/13	演習	実習報告会 「臨床実習Ⅱ」で学んだ事を基にレポ ート・レジュメを作成し、学内で報告す ることができる。	
準備学習 時間外学習			学外 臨床実習に向けた自己学習、実技練習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				